

4 地球環境関係データ

■概要

(1) 大阪府域における温室効果ガス排出量の推移

府域における2022（令和4）年度の温室効果ガス排出量は4,528万トン（CO₂換算）です。前年度と比べると7.5%増加しており、その主な要因としては、電気の排出係数[※]の増加が挙げられます。また、2022年度の二酸化炭素排出量は4,134万トンであり、前年度と比べ8.6%増加しています。

※ 電気の排出係数とは、使用電力量1 kWh当たりの二酸化炭素排出量を表す値。発電時の電源構成（火力発電や再生可能エネルギー等による発電のバランス）により変動し、火力発電の割合が増加すると係数は増加する。

(2) 大阪府域におけるエネルギー消費量の推移

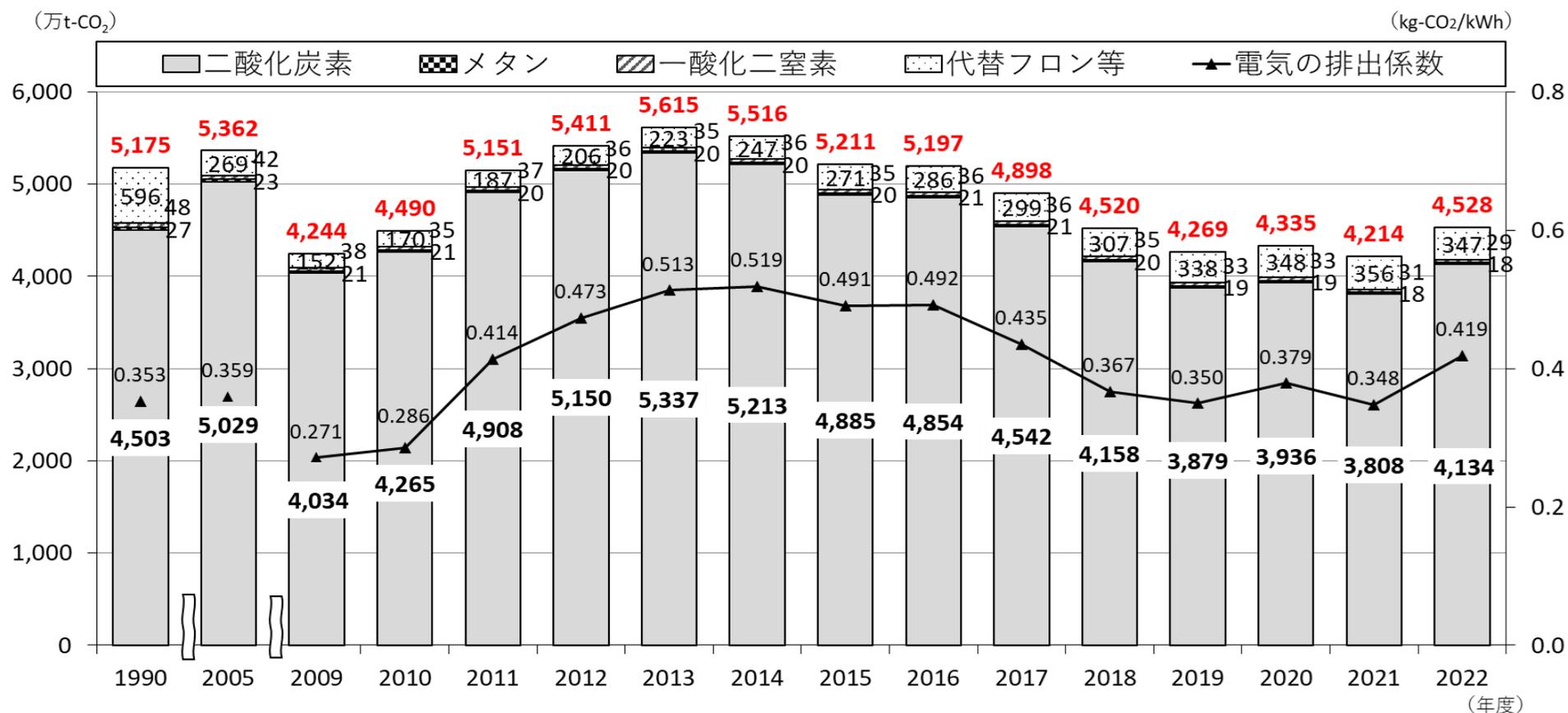
2022（令和4）年度のエネルギー消費量は497PJ（ペタジュール）[※]であり、前年度と比べ2.1%減少しています。

※ J（ジュール）はエネルギー量の単位。PJ（ペタジュール）は10¹⁵ Jを表す。

(3) 再生可能エネルギー等の導入実績

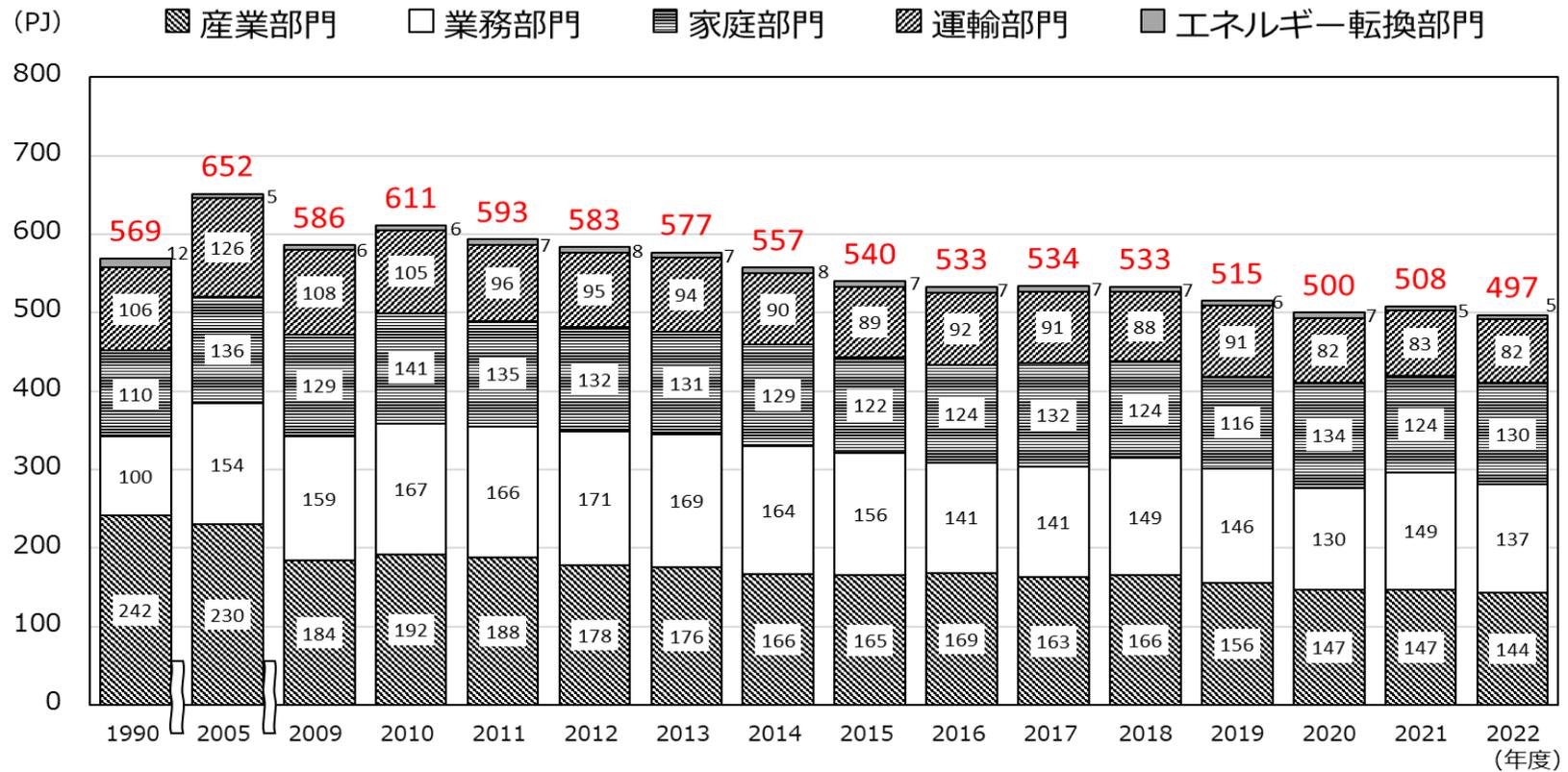
府における再生可能エネルギー等の導入実績（2024（令和6）年度末時点）は、太陽光発電が132.2万kWであり、前年度と比べ、8.1万kW増加しています。また、コージェネレーション等の分散型電源が49.7万kW、廃棄物発電等が27.7万kW、などとなっています。

4-1 大阪府域における温室効果ガス排出量の推移



- (注) 1. 電気の排出係数は、2005～2007年度は一般電気事業者等(現行制度における小売電気事業者)に対して大阪府が行った調査等により、府内基礎排出係数を推計し、2008年度以降は同様の調査等による府内調整後排出係数を推計し、算定に用いた。
2. 四捨五入の関係で、各値の合計と合計値が一致しないものがある。

4-2 大阪府域におけるエネルギー消費量の推移



※PJ(ペタジュール):エネルギー量の単位で、千兆(10の15乗)J(ジュール)のこと
 なお、1 J(ジュール)≒0.239 カロリーとなる。
 例えば、0℃の水1リットルを100℃まで加熱するには、
 418 kJ(キロジュール)=418,000 J(ジュール)が必要となる。

4-3 府内の再生可能エネルギー等の導入実績

2024(令和6)年度末現在

種 類	府内の導入実績
太陽光発電	132.2 万kW (住宅用:64.7 万kW、非住宅用:67.6 万kW)
分散型電源(コージェネレーション等)	49.7 万kW (家庭用:6.0 万kW、事業用:43.7 万kW)
廃棄物発電等	27.7 万kW (うち、一般廃棄物による廃棄物発電:27施設 24.5 万kW)